

地域資源の活用 1

帰省時に宿泊できるゲストハウス <四州教区、山口教区>



空き家を買った例

●帰省支援、参拝機縁づくり

「盆参りに帰省するが、宿泊する家がない」「空き家の管理ができておらず、ホテルに宿泊している」との声から、

- ① “みんなの家”というゲストハウスを境内に建てる計画をしている寺院。
- ② 門徒の“空き家”を買い取り、ゲストハウスにしている寺院があります。

門徒の空き家を定住希望者に紹介 <山陰教区、山口教区>

●U・Iターン、定住の支援、新たな縁作り

「行政の定住支援は“空き家バンク”の家を紹介するだけ」「地域の良さや、生活に関係することを教えてくれない」との新規定住希望者(U・Iターン者)の声から、住職が、「寺院で把握している“門徒の空き家情報”」によって、行政とU・Iターン希望者双方をつなぐ役割をしています。

結果、

- ① 定住者が住むことで空き家が維持・管理され、収入ができる。
 - ② 定住希望者は安価で定住が実現できる。
 - ③ お寺と新規定住者の縁ができる。
- ということにつながっています。



(左)活動を取り上げている市のU・Iターン情報誌

民家を聞法道場にするという方法 <東京教区>



古民家を寺院にされた寺院例

●既存の寺院形態にとらわれない新しい寺院の提案

都市開教の拠点として、既存の寺院形態にとらわれない新しい寺院を提案しています。

古民家の当初の所有者は、養蚕を営んで隆盛を極めた豪農だったのであろうとのこと。

梁と柱が大変立派です。主な工事は、梁や柱、床をできるだけそのままに、水回りを新たに設置して、耐震強度を高めるといったもの。

ご本尊と仏具一式は所属寺が代務を引き受けていた寺院から譲り受けています。